

# 公益財団法人国際エメックスセンター

## 平成31年度事業計画

### I 事業方針

我が国及び海外における閉鎖性海域の環境保全に関する取組みの連携の強化を図り、積極的にこれに貢献するため、人的・知的ネットワークの有効活用を図るとともに、国内外の閉鎖性海域の環境保全に取り組む様々な市民、機関、研究者等の参加を得て、「多様な自然と人間が共生する持続可能な社会」を目指した事業を推進する。

### II 事業計画

#### 1 閉鎖性海域環境保全推進事業

##### ア 第13回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス13）の開催準備等

エメックス13の開催については、平成29年（2017年）7月の科学・政策委員会においてECSA会議との共同開催が提案され、その後、事務局間の協議を経て、平成30年（2018年）11月の科学・政策委員会にて、具体的実施に向けた計画案が議論・承認された。現在、次の案をもとに準備を進めることとなっている。英国での開催は初めてとなる。

##### 【エメックス13の概要】

- 〔名称〕 第13回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS 13）
- 〔時期〕 平成32年（2020年）9月7日（月）～9月11日（金）（調整中）
- 〔場所〕 英国・ハル大学
- 〔主催者〕 国際エメックスセンター
- 〔共催者・現地事務局〕 河口域・沿岸科学学会（ECSA）事務局

#### ① エメックス13の開催準備

会議開催に向けて、ハル市等の地元自治体、研究機関、関係団体等とのネットワークの構築、資金面、人材面での協力を得られるよう準備を整える。このため、エメックス事務局が現地英国を訪問し、現地事務局との覚書締結や関係機関等を訪問し、協力要請を行う。併せて、今回はECSA会議との共同による開催となるため、EMECS13-ECSA58運営委員会を設置して会議運営について協議を行う。

#### ② エメックス14の開催地等の検討

エメックス14の開催地等について、科学・政策委員会において検討する。

### ③ 科学・政策委員会の開催

エメックス13の開催準備及びエメックス14の開催地等について検討を行うとともに、エメックス活動の今後の推進等について、海外専門家等の知識・経験をもとに検討調整を図るため科学・政策委員会を開催する。

〔開催時期〕平成31年（2019年）7月16日（火）

〔開催場所〕兵庫県公館

### イ エメックス国際セミナーの開催

世界の閉鎖性海域の最新の動向や環境保全政策の展開等に関する話題について広く県民・市民を対象としたセミナーを開催し、エメックス活動の国内での普及啓発を進める他、エメックス13に向けた広報を行う。

〔開催時期〕平成31年（2019年）7月17日（水）

〔開催場所〕神戸市内

### ウ 国内外機関との連携

国際的な調査・研究事業の推進に向けて、海外研究者等との人的ネットワークを構築していくため、ECSA（河口域・沿岸科学学会）、PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）、MEDCOAST財団等海外関係機関との連携・充実を図る。

#### ① ECSA（河口域・沿岸科学学会）との連携

ECSA（Estuarine & Coastal Sciences Association、河口域・沿岸科学学会）主催の国際会議「ECSA58」との共同開催という形をもって、エメックス13を開催することから、ECSA関係者が集う関連会合に出席し、ECSA事務局と連携を強化する。

#### ② PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）との連携

エメックスが非政府パートナーとなっているPEMSEA（Partnerships in Environmental Management for the Seas of East Asia）主催の年次会合に参加し、関係機関との連携を図る。

〔開催時期〕平成31年（2019年）7月24日（水）～26日（金）

〔開催場所〕スラバヤ（インドネシア）

#### ③ MEDCOAST財団との連携

オーザン科学・政策委員が代表を務めるMEDCOAST財団からの参加協力要請に応じ、同財団主催の国際会議「MEDCOAST19」に参加し、里海に関する講演・展示を行う他、エメックス13について広報・周知を行う。

〔開催時期〕平成31年（2019年）10月22日（火）～26日（土）

〔開催場所〕マルマリス（トルコ共和国）

#### ④ SDG14の海洋行動コミュニティでの連携

平成30年11月、タイで開催したEMECS12のパタヤ宣言において、「国際エメックスセンターはリーダーシップを発揮するため、国連の持続可能な開発目標：海洋および海の資源の保全と持続可能な利用（SDG14）において、ボランティア・コミットメントの登録を目指すことにしている。」と表明し、平成31年2月にボランティア・コミットメントを登録した。

当該登録を行った世界の関係機関で構成される「海洋行動コミュニティ」の一員として連携事業の検討を行う。

#### ⑤ 国内関係機関との連携による全国里海シンポジウムの開催

国内で里海づくりを推進しているNPO法人里海づくり研究会議（理事長：松田治・広島大学名誉教授）等と連携し、里海づくりに関する情報交換を行い、国内の取組みを推進する。

〔開催時期〕平成31年（2019年）12月

〔開催場所〕沖縄県

### エ 調査研究事業

#### ① 客員研究員による研究プロジェクトの企画・提案活動

高度な知識、経験等を有する研究員を国際エメックスセンターの客員研究員として委嘱し、調査研究に係る協力を要請する「客員研究員制度」を立上げ、外部資金による共同研究プロジェクトの企画と提案活動等を行う。

#### ② 尼崎港実証実験施設の活用

水質や底質、生物の生息環境の劣化等の進んだ湾奥部の環境の再生をめざして尼崎港に設置している生物共生護岸や人工干潟等の実証試験施設を研究の場として市民活動団体等に提供する。

## 2 情報収集整備活用事業

### ア 閉鎖性海域・里海ネットワークの運用・充実強化

「世界の閉鎖性海域情報」の更新・追加を科学・政策委員等の協力を得て実施するとともに、「科学・政策の動向」などの最新情報を概ね月1回程度の頻度で更新する。

また、データベースシステムに蓄積する「エメックス会議」、「里海ワークショップ」等の発表資料を適宜追加し、内容を充実していく。

### イ インターネットによる情報発信等

エメックス会議の開催結果、報告書等の公表、国際セミナーの案内、調査研究事業の成果発表、出版等に関する情報発信をはじめ、閉鎖性海域の環境保全と適正な利用に関連した各種情報の収集と発信（日本語・英語）をタイムリー

に行う。

#### ウ エメックスニュースレター等による情報発信

当センターの活動状況、世界の閉鎖性海域の環境保全活動等を掲載した「エメックスニュースレター」を発行する（日本語・英語）。

また、国際セミナーの案内等、タイムリーな情報発信が必要な内容については、メール配信システム（メルマガ）を利用した情報発信を行う。

### 3 人材育成・普及啓発事業

#### ア 統合的水環境管理研修（JICA研修）

国際湖沼環境委員会（ILEC）が国際協力機構（JICA）から委託を受けて実施する開発途上国行政官向けの「水資源の持続可能な利用と保全のための統合的湖沼・河川・沿岸流域管理」研修について、沿岸域管理に関する研修を担当する。

#### イ 海の環境学習人材育成事業

尼崎港内の人工干潟等を活用した環境人材育成活動を推進するため、引き続き徳島大学をはじめ地域の環境団体やNGO、専門家とともに事業を推進していく。

#### ウ 環境イベントへの出展等

エメックスセンター活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報発信のため、エコフェスティバル等各種環境イベントに出展を行う。